

国道23号名豊道路は2024年度に全線開通を迎える。本路線は愛知県の名古屋市と豊橋市を結び沿線の8市1町を通過する延長72・7キロの高規格道路だ。知立、岡崎、蒲郡、豊橋、豊橋東の五つのバイパスで構成され、地域の交通需要やネットワークの連続性等を考慮して段階的に整備された。1972年度の事業化着手から半世紀以上を経て全線開通が間近に迫る。

名豊道路の起源は、名神高速道路や東海道新幹線が

開通する以前、62年ごろに関係市町村から提唱された「愛知海道」にまでさかのぼる。その後、愛知県や建設省において検討が重ねられ、66年度に「第一東海道」

国道1号および国道23号（現道）の交通緩和が名豊道路の大きな役割の一つであった。また、経済の中心地と臨海工業地帯やその後背地、農村地帯と工業地帯など都市との結びつきを図り、都市の過密化防止、地域格差の是正、土地利用の効率化に資する道路として地域社

半世紀の想いつながる名豊道路

都市圏の発展と道路網(3)

会から大きな期待を寄せられた。

の二環として基本構想が確立された。戦後の高度経済成長期にあつて、工業地帯の拡充やモータリゼーションの進展に伴い、激増する

愛知県三河地域はモノづくりが卓越し、周辺の港湾や高速道路などの社会基盤が当地の成長を支えてきた。その中で拠点機能

やネットワーク機能を担う社会基盤の有効活用にも名豊道路は大きな役割を果たした。沿線周辺には港湾、空港が位置し、企業立地や工業団地等の開発が進む。

また、三河地域は全国で



右近 崇(うこん・たかし) 政策研究事業本部研究開発第1部(名古屋) 主任研究員

も有数の農産物の産出量を誇る。名豊道路は物流や移動の効率化を図り、地域経済の活性化に寄与した。経済的な側面のほか、名豊道路は歩行者と車両が分離され、路上で交わらない構造のため、並行する一般道に比べて安全性が高い。加えて、津波浸水被害が懸念される三河地域沿岸部の浸水

無料の国道1号を利用した場合1時間50分かかるが、名豊道路を全線利用すると1時間に短縮する。接続する国道23号名四バイパスや国道1号潮見バイパス、伊勢湾岸自動車道などあわせてスムーズな移動を実現する道路網が生まれる。

一方で全線開通時、名豊道路の暫定2車線区間は総延長の半分以上を占め、事故等が発生すれば混雑や滞留が懸念される。平常時、非常時を問わず名豊道路の役割が遺憾なく発揮され、道路利用者や沿線地域が開通効果を享受するためには、全線4車線化事業が望まれる。(毎週木曜日に掲載)

